

# 令和6年度 事業報告

～心とこころ 人とひととのつながり～

社会福祉法人 中津市社会福祉協議会

■ 事業報告概要

1~7

■ 事業報告

No	項目	ページ
1	法人会務の運営	8
	1) 理事会	8
	2) 評議員会	8
	3) 監査会	8
2	会費、寄付金及び共同募金	9
	1) 会費	9
	2) 寄付金	9
	3) 物品寄付	9
	4) 中津市共同募金委員会への協力	9
	5) 中津市共同募金委員会への協力（災害義援金）	9
3	住民主体による小地域ネットワークの推進	9
	1) 寄り合いの場支援	9
	2) ネットワーク構築支援	10
	3) 各種団体等助成金	10
4	相談機能の強化による在宅福祉サービスの充実	10
	1) 障がい者福祉サービス事業	10
	2) 移動支援事業	11
	3) 障がい児（者）余暇活動支援事業（てくてく）	11
	4) 障がい者ミニデイ支援（鈴の音）	11
	5) 障がい者等生活環境整備事業	11
	6) 寝たきり高齢者見舞品贈呈事業	11
	7) 福祉用具貸出事業	11
	8) 福祉啓発イベント	11
	9) 介護保険事業	12
	(1) 介護老人福祉施設（特別養護老人ホームやすらぎ荘）事業	12
	(2) 短期入所生活介護（特別養護老人ホームやすらぎ荘）事業	12
	(3) 訪問介護事業	12
	(4) 通所介護事業	12
	(5) 通所型サービスA（生きがい元気アップクラブ）	12
	(6) 訪問入浴介護事業	12
	(7) 居宅介護支援事業	12
	10) 高齢者生活福祉センター事業	12
	11) 老人福祉施設 養護老人ホーム運営事業	12
	12) 地域包括支援センター事業	13
	(1) 包括的支援事業	13
	(2) 介護予防事業普及啓発事業	13
	(3) 各種調査業務	13
	(4) 介護予防支援（計画作成）業務	13
	(5) 在宅医療・介護連携推進事業	13
	(6) 「元気！いきいき☆週一体操教室」立ち上げ継続支援事業	13
	13) 認知症地域支援推進事業	13
	(1) 会議・研修会参加	13
	(2) 認知症支援、普及啓発に関する各種取組	13
	14) 生活福祉資金貸付事業	14
	(1) 生活福祉資金貸付	14
	(2) 特例貸付みまもり支援	14

15)	生活困窮者自立促進支援事業	14
	(1) 家計改善支援事業	14
	(2) 就労準備支援事業	14
	(3) 社会資源等研究開発事業	14
	(4) ひきこもり支援事業	15
	(5) 一時生活支援事業	15
	(6) 支援調整会議	15
	(7) その他の支援事業	15
16)	重層的支援体制整備事業	15
	(1) 自立相談支援事業	15
	(2) 多機関協働支援事業	15
	(3) 参加支援事業	16
	(4) アウトリーチ塔を通じた継続的支援事業	16
17)	福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートセンター中津）	16
18)	成年後見事業	16
	(1) 市民後見推進事業	16
	(2) 法人後見事業	17
	(3) 成年後見支援センター事業（中核機関）	17
19)	介護保険要認定調査事業	18
20)	三光児童館事業	18
21)	放課後児童クラブ事業	18
5	多様な人材による地域活動の推進	18
	1) 住民参加型有償サービス事業（社協型）	18
	2) 生活支援体制整備事業	18
	3) 中津市福祉の里づくりサポーター事業	19
	4) ファミリー・サポート・センター事業	19
6	福祉意識の高揚・啓発及び育成	20
	1) わいわい福祉ひろば事業	20
	2) 社協だよりの発行	20
	3) エリアの取組み	20
	(1) エリア広報紙（地域福祉情報紙）の発行	20
	(2) 各エリアの地域福祉の取組み	21
	(3) 安心生活支援事業（買い物支援事業：山国）	21
	(4) 葬祭壇貸出事業	21
	4) 事業所広報紙・新聞	21
	5) ホームページ	21
7	法人組織体制の強化	22
	1) 職員配置状況（所属別）	22
	2) 法人内部における会議・委員会	22
	3) 職員全体及び階層別研修会	22
8	ボランティア・市民活動の相談、啓発、育成	23
	1) ボランティア・市民活動センター事業	23
	2) ボランティア情報紙の発行	23
	3) ぼらかふえの開催	23
9	その他社協事業	24
	1) 福祉バス運行事業	24
	2) 災害見舞金支給事業	24
	3) 施設等管理運営事業	24
10	各種共催・後援状況、視察受入、協力	24
	1) 行事の共催及び後援状況	24
	2) 視察の受入れ、協力状況	24

# 令和6年度 事業報告

社会福祉法人 中津市社会福祉協議会

## 事業 総 括

近年、少子高齢化や核家族化、高齢者世帯の増加、価値観の多様化、生活に対する不安、犯罪や事件の深刻化などを背景に、地域社会のつながりや、地域に対する関心の希薄化が問題となっています。

また、これらに関連して、孤独死、虐待、認知症高齢者の行方不明、消費者被害、障がい者の地域移行、見守りが必要な人の増加など、地域の福祉課題が明らかになってきています。

一方、ボランティア活動に関心を持つ人や、会社を退職された方が地域を中心とした生活を送ることを望む人が増えています。しかし、これらの人が地域福祉活動の担い手につながっているわけではなく、担い手不足の問題が解消されているわけではありません。

そのような中、国は、「地域共生社会」の実現に向けて、地域における多様な支援ニーズに的確に応えていくため、個人や世帯が抱えるさまざまな課題に、包括的に対応していくこと、また、地域の実情に応じて、高齢・障がいといった分野を超えて、総合的に支援を提供していくことが求められています。

中津市社会福祉協議会では、持続可能な財政運営・経営基盤強化を進め、包括的支援体制の構築を図るため民間支援機関とのネットワークの構築に努めました。

地域の人財育成では、隔年で市民後見人養成講座を開催、また、ボランティア活動への人財育成として入門講座等を開催しました。

介護保険事業では、災害時や感染症が拡大した場合など職員が不足した場合でも事業が継続できるようにBCP(業務継続計画))を策定し、緊急時の事業所対応に備えました。

三光児童館では、乳幼児の親子を対象とした「子育てひろば」を開催し、多くの親子に利用していただいたり、放課後児童クラブでは近年多発する自然災害の対応として危機管理マニュアルを作成し、児童の安全・安心な利用に向けて取り組みました。

施設運営では、入所者の自立支援を目指して各種活動や行事に取り組み“生きがい”づくりにつなげ、職員の資質向上のため、石川県輪島市に職員を派遣し災害時の施設運営の研修と被災者支援を行いました。

今後も、様々な法改正や複雑・複合化する福祉課題に取り組むため、地域住民、関係機関・関係団体・行政と連携・協力して地域福祉の推進に取り組んで参ります。

## 総務課

### (1)持続可能な財政運営・経営基盤強化の推進

寄付金などの自主財源確保のための取り組みとして、ホームページやフェイスブック、広報紙等で随時更新を行い、社協の地域福祉活動への幅広い理解と協力を求めました。また、県社協のファンドレイジング職場内研修応援事業として、係長職以上を対象に研修会を行い、ファンドレイジングの基本的な考えや自主財確保についての重要性を共有しました。

今後も予測される最低賃金改正や物価高騰等への対応を踏まえ、各種の財源確保及び自主財源確保に向けた具体的な取り組みについて検討を行っていきます。

### (2)多様な手法による人材確保・情報発信の強化

今年度も職員全員への管理職による面談や人事評価を行いながら、人員配置や採用計画の参考としました。また、ハローワーク、社協だより、エリアだより、ホームページ等への職員募集の掲載やネット求人、チラシポスティング、自治委員文書個別配布、人材紹介会社の活用により人材の確保に努めました。

本会全体で、21名の新規採用(正規10名、嘱託2名、非常勤9名)を行い、また、継続していた特別養護老人ホームやすらぎ荘の人員不足について、介護職員6名の雇用に繋がり、内特定技能実習生の計画的雇用として3名(ミャンマー2名、フィリピン1名、計7名)採用し、安定した介護サービスの体制整備を図りました。

### (3)ICTを活用した業務効率改善の推進

県の「デジタルスキル向上支援事業クラウドサービス導入費用補助金」を活用し、(※)キントーンのデモ使用や勤怠管理システムデモ実施等、ICTを活用した業務効率改善についての情報収集を進めるとともに県社協が進める災害用キントーンの整備を行いました。今後の災害時に備え、ニーズ調査やボランティア募集やマッチング等にスムーズ活用出来るよう、平常時から訓練等を通じて運用を進めていきます。

また、ICTの導入にあたっては、費用対効果を前提として、法人としての業務効率改善についての調査研究を進めていきます。

※キントーンとは、プログラミングの知識がなくてもノーコードで、業務のシステム化や効率化を実現するアプリが作れるクラウドサービスです。表計算ソフトよりも快適に、専門システムより柔軟に、自社でシステム開発をするよりスピーディー&低コストに、思いついた業務改善をすぐに実行できるのが特長です。

### (4)福祉避難所運営への取組みの強化

本会において、福祉避難所の指定を受け、豊寿園においては他法人との連携も踏まえ取組みが進められていますが、その他の施設においては、施設形態の違いによる運営面や人員体制、備品等の整備が進んでいない現状となっています。

今後は、法人全体のBCP(業務継続計画)策定する中で、災害時における業務の優先順位を明確化し、その中で、福祉避難所運営への取組みを検討していきます。

## 地域福祉課

### (1) 連携から協働に向けた包括的支援体制の構築

地域・民間支援機関・行政の連携と協働を推進していくためには、まずそれぞれのネットワークの確立が重要なことから、令和 6 年度は民間支援機関のネットワークづくりに努めました。暮らしサポート事業を実施している社会福祉法人の CSW(コミュニティソーシャルワーカー)等で構成する「福助ネットワーク」メンバーで企画し、社会福祉法人を対象に地域貢献活動の現状とネットワークに関するアンケート調査を実施しました。30 ヶ所中 21 ヶ所より回答をいただき、集計した結果、ネットワークの必要性や期待が大きいことがわかりました。この結果をもとに、社会福祉法人やNPO法人等で集まる機会を設け、ネットワーク構築を進めます。

### (2) 福祉ニーズに対する実態把握の実施

義務教育から次に進む時に子どもたちの状況がうまく伝えられていない、高校生活でつまづいた子どもへの支援が行き届かない、ということがひきこもり・不登校の要因のひとつとなっています。そのような福祉課題の実態把握として、市内の中学校と高校(公立・私立・通信制)の先生方を対象にアンケート調査を実施しました。179 名の方からご回答いただき、子どもたちの居場所や教育と福祉の連携の必要性が明らかになりました。今後、教育と福祉関係者がつながるために、現状と課題を共有できる機会づくりを進めていきます。また、増加している総合相談の内容から、権利擁護や住まいについての課題も多く見えてきました。

### (3) 生きる力につながる参画機会の充実

孤立感を感じ、やりがいや生きがいにつながる機会が少なくなっている方に対する支援として、ボランティア・市民活動センターでの相談支援、就労を主とした「参加支援事業」、高齢者の生きがいづくりにつながる「生活支援体制整備事業」を進めています。これらの事業が横につながることで機会の充実になると考え、生活支援体制整備事業における高齢者支援機関の協議の場で、「参加支援事業」について知ってもらう場を設けました。また、「さんかくぷれいす」という窓口を定期的に開所し、就労やボランティア活動など様々な情報提供等、多様な相談に対応できるように、異なる係の職員同士が協力して取り組むようにしました。

### (4) 地域福祉人財の育成

各種事業を通じて、多様な人財育成の研修会を行ないました。2 年に 1 回の市民後見人養成講座では 10 名の方が受講・修了されました。また、ボランティア活動への入口となる入門講座には、高校生から 70 代まで幅広い世代の方の参加がありました。地域福祉活動を長年続けている方々が今後もやりがいを持って続けていけるよう、交流や活動のヒントとなる内容の研修会については、市域・小地域とさまざまな形で開催しました。また、ケアマネジャーや相談支援機関等の専門職も参加できる研修を開催することで、専門職の地域福祉に対する理解を拡げる機会となりました。

### (5) 総合相談支援体制の強化

権利擁護・困窮・介護・障がい・不安等、様々な相談が増える中、部署を超え連携しての支援体制に努めました。特に三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国エリアでは、4 エリアを担当する包括支援センターと地域づくり担当、相談支援担当職員とが、サロンに向かう活動や認知症理解を進める「オレンジカフェ」などの取り組みを協力しながら実施しました。また、個別の支援ケースにも訪問やつなぎ先への支援など、協力して取り組む体制づくりを進めました。

## 在宅福祉課

### (1)在宅サービスを継続的かつ安定的に行っていくための取り組み

本会の主なサービス提供地域である中山間地域において、安定した在宅福祉サービスを提供していくために事業内容の見直しや営業活動を行いながら事業を推進しました。

- ・令和6年4月 デイサービスセンター三光をデイサービスセンター本耶馬溪へ統合
- 同 訪問入浴サービスセンターを三光から本耶馬溪町折元に移転
- 同 生きがい元気アップクラブの事業内容を変更(営業時間、昼食、人員配置)

### (2)災害時や感染症におけるBCP(業務継続計画)の運用

BCPは、起きてしまった災害、感染症について、事業所としてどのように事業を継続していくかを平素から職員間等で共有しながら、有事の際に備えておく計画です。介護保険法の改正により、事業所は計画の策定が義務付けられ、災害のBCPについては令和6年度から研修と訓練が義務付けられました。

令和6年度は、研修については石川県能登地震での事業所の動きを学び、訓練においては水害時における机上訓練を行いました。

また感染症のBCPについては策定年として事業所職員で複数回の会議を行いながら、コロナやインフルエンザ等の感染症が事業所でまん延した場合、職員がどのような動きをするかなどの整理を行うことで、緊急時における事業所対応を浸透させていきました。

### (3)良質な介護サービスを提供するための働きやすい職場づくり

各事業エリアで開催される会議での部門間の情報共有や事業所の業務改善会議や専門職部会において、ご利用者様に満足いただけるサービスを提供するために何が重要なのかを職員同士で話し合い、よりよい介護サービスへ繋げました。

また、ケアプランデータ連携システムの導入により、他事業所間の利用者様の実績等の連携をデータ上で行ったり、積極的なICT(Zoomやアプリなど)の活用による事務負担の軽減につなげることで、働きやすい職場づくりを行いました。

## 福祉サービス課

### (1)こどもまんなかの三光児童館及び地域の子育て支援の推進

三光児童館は、令和6年4月からInstagramを開設し、児童館や子育てひろばの様子や児童館広報誌を掲載しています。SNSを活用することで、幅広く広報ができ、また、行事当日の予約空き状況や天候による急な変更もリアルタイムに情報発信することで、対応力を上げています。

地域子育て支援拠点としては、子育て中の親子が利用しやすいように、コミュニティーセンターでの乳幼児健診時に案内版を設置したり、児童館遊戯室の一角にままごとコーナーを整備しました。また、毎週木曜日(長期休暇を除く)には、「子育てひろば」にてイベントを開催し、年間180組の利用がありました。

「ともだちひろば」(“出張子育てひろば”)については、11月から耶馬溪一か所に変更しました。

児童館の行事については、夏休みに防災をテーマにした「あそぼうさい」に78名参加、夏まつり〜わ

いわいまつり～の来場者数は、247名でした。行事の際には、こどもの意見を取り入れ、こどもがやってみたい遊びや新しい体験ができるよう企画しています。年間利用者は、延べ9,828名で、地域の方やボランティアの利用は502名でした。

## (2)こどもが安心安全幸福に過ごせる放課後児童クラブの運営

各児童クラブの安全計画及び危機管理マニュアルを令和6年4月に作成し、令和7年2月に見直しも行いました。児童クラブでは、毎月、避難訓練を実施しており、児童の安全確保に努めています。また、中津市からの避難情報警戒レベル3以上が発令された場合には、速やかに閉所の決定をし、配信メールを活用し、保護者への連絡が迅速にできました。

児童支援員の資質向上の取り組みとしては、中津市主催の研修「パワーアップワークショップ」に延べ51名、連絡協主催の研修には全員参加しました。また、定期的にミーティングを行い、より良い支援ができるよう話し合いの場を確保しています。また、小学校との連携の機会を設け、支援方法の確認や方向性の統一に努めました。

## (3)生活支援ハウス・ホームで安心して生活できる支援の充実

今年度は、広報や包括支援センターとの連携により、相談件数も増え、年度末の入居者数は、山国生活支援ハウスが16名、耶馬溪生活支援ホームが9名となり、山国の入居率は6%増となりました。

感染予防対策として、職員の手指消毒、毎日の検温、外泊後の対策等に取り組みました。その中でも、レクリエーションの充実を図り、マイクロバスでの外出や定期的な買い物外出、移動販売の利用、運動会や敬老会等の季節の行事を行い、ご利用者に喜んでいただくことができました。

災害対応としては、6月の大雨、8月の台風時には、別棟や別施設へ早めの避難を行いました。昨年度作成したBCP(業務継続計画)は、2月に職員全員参加で見直しを行い、災害等が発生した際に安定的・継続的にサービスを提供できるよう準備、意識を高めることができました。

また、電気料の高騰を鑑み、節電対策も積極的に取り組んでいます。

# 養護老人ホーム 中津市豊寿園

## (1) 地域生活における福祉的課題の発掘・支援を推進

地域生活における様々な生活課題を把握するため、市内地域包括支援センターや近隣自治体への訪問を実施しました。また、第三者による聴き取り調査の取り組みには、市内地域包括支援センターの協力を得ることで、施設の内外的な事情を把握する場としても有効で施設と相談機関の連携体制を図ることが出来ました。

なお、緊急保護的な役割を果たす短期入所事業においては柔軟な対応を行ったほか、住宅確保要配慮者を対象にした契約入所事業を本格的に運用しました。この取り組みにより、制度の狭間に位置する高齢者を積極的に受け入れ、関係機関と連携し在宅復帰の為の支援や他施設入所へ繋げ、養護老人ホームが地域の社会資源の一助となりえる取り組みに努めました。短期入所事業及び契約入所事業は福祉関係者に広く認識され、養護老人ホームがセーフティーネットとして効果的な支援を提供することができました。

## (2) 職員の人材育成と人材確保

職員の人材育成を図るため、各種外部研修会へ積極的に参加し、他の職員への伝達研修を実施しました。特に、石川県能登半島地震及び豪雨災害の被災者支援に力を入れ、現地支援のため被災した高齢者施設及び避難所に対し職員による炊き出し支援を実施しました。

また、「社会福祉施設の災害時等における相互応援協定に関する基本協定」を締結後、他施設職員と協働により訓練を実施し、スキルアップ・資質向上を図ることが出来ました。

## (3) 入所者活動の強化と社会貢献活動の推進

自立支援を目的とした養護老人ホームとして、入所者への“生きがい”活動を活発化させるべく、各種活動や行事を積極的に企画し実施しました。特に、社会貢献活動では入所者も職員も一丸となり、交通安全立哨活動や地域の美化活動、鶴居コミュニティセンター活動への参加、園芸活動に取り組み、その活動から得られる益金により、生活困窮者支援や被災地への支援を行うことが出来ました。

また、入所者就労支援を進めるため、内職(椎茸足切り)を試験導入しました。

## (4) 地域との“つながり”づくりに向けた取り組みの推進

日頃から地域や施設・関係機関との“つながり”をつくり、有事(災害時等)の際においても相互に協力できる体制が構築できることを目指し、新型コロナウイルス感染症による影響を受ける前の各種行事や地域交流活動を再開しました。具体的には慰問の招待や地域行事への参加の強化を行いました。特に、地域住民を招いた『秋祭り』の開催や『ふれあいもちつき大会』の交流活動を行うことが出来ました。

# 中津市特別養護老人ホーム やすらぎ荘

## (1) 健全で安定的な経営の推進

令和6年度は、前年に引き続き赤字決算となりました。主な要因としては、地域の人口減少により待機者が著しく減少したことと、有料老人ホームとの競合となり、利用者の奪い合いが発生したことが主な要因となっており、このような状況を踏まえ、10月から営業活動に力を入れたことで利用者が回復しています。

また、業者委託で行っていたグリストラップの清掃を、職員で行う等の経費削減の取り組みや新たな加算取得を開始して、介護報酬増に努めました。

## (2) 感染症・食中毒予防及び入所者・職員の健康管理の推進

施設に於いては利用者が集団で生活する場であり、その特性を踏まえた対応が重要であると考えていますが、令和6年度、施設でコロナウイルス感染が3回発生し、利用者27名、職員15名が感染しました。しかしながら今までの経験を活かし、重傷者の発生もなく感染拡大を防ぐことが出来ました。食中毒予防については、令和6年度も発生していません。特に昨年4月から施設内で調理を行う工程から、セントラルキッチンで調理された食事を購入し、施設で温めて給食を提供することで、食中毒のリスク軽減、安定した給食の提供が出来ました。職員の健康管理については毎日の検温、少しでも気になる症状があれば積極的な抗原検査を実施しました。

### (3)地域とのつながりを推進し開かれた施設への取り組み

近年やすらぎ荘近隣の人口も減少しており、地域住民の高齢化により各種団体の解散もあり、地域のつながりの希薄化が深刻になってきています。施設のイベントも規模を縮小し施設だけで開催しているのが現状です。そのような中、7月にアカデミアの会による施設外回りの清掃、7月から9月にかけて養護老人ホーム豊寿園の利用者が施設周りの清掃、10月に下郷保育園児24名が歌や踊りを披露、12月に家族会会員が施設周りの清掃と窓ガラスの洗浄を行っていただきました。また耶馬溪ライオンズクラブが門松を作成と地域とのつながりを大切にしています。また、11月に佐伯市蒲江地区民生委員の視察、12月に大分県立芸術短期大学の学生が外国人労働者の受入施設との意見交換会をやすらぎ荘で行いました。

### (4)生産性の向上を目指した DX の導入推進

令和6年3月にWi-Fi環境整備、ナースコール更新、インカム及び見守り介護ロボットammsの導入が完了し、4月から本格稼働を行いました。以前は職員同士の連絡手段としてPHSを使用していましたが、1回の通話で1人にしか連絡が出来ないため、同じ情報の共有に時間がかかることが課題でした。導入後では、インカムによる情報の共有化が出来るようになり、生産性の向上が図られています。

1. 法人会務の運営

法人の運営にあたり、理事会・評議員会・監事会を開催。  
提案された議案については、原案どおりすべて承認。

1) 理事会

第1回 令和6年6月11日（火） 14時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

出席 13名 欠席 3名 監事出席 1名  
第1号議案 令和5年度事業報告について  
第2号議案 令和5年度決算報告について（監査報告）  
第3号議案 令和6年度第1次補正予算について  
第4号議案 理事候補者の推薦について  
第5号議案 評議員候補者の推薦について  
第6号議案 評議員会の招集について  
報 告 職務執行報告について

第2回 令和6年11月1日（金）14時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

出席 13名 欠席 3名 監事出席 1名  
第1号議案 令和6年度第2次補正予算について  
第2号議案 就業規則の変更等について  
第3号議案 評議員候補者の推薦について  
第4号議案 評議員選任・解任委員の選任について  
第5号議案 評議員会の招集について  
報 告 職務執行報告について

第3回 令和7年3月14日（金）14時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

出席 14名 欠席 2名 監事出席 2名  
第1号議案 令和6年度第3次補正予算について  
第2号議案 令和7年度事業計画について  
第3号議案 令和7年度当初予算について  
第4号議案 規程の変更及び育児・介護休業法の改定について  
第5号議案 定款の変更について  
第6号議案 役員等賠償責任保険契約について  
第7号議案 評議員会の招集について  
報 告 職務執行報告について

2) 評議員会

第1回 令和6年6月25日（火） 10時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

出席 28名 欠席 4名 監事出席 2名  
第1号議案 令和5年度事業報告について  
第2号議案 令和5年度決算報告について（監査報告）  
第3号議案 令和6年度第1次補正予算について  
第4号議案 役員を選任について

第2回 令和6年11月12日（火） 10時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

出席 23名 欠席 9名 監事出席 2名  
第1号議案 令和6年度第2次補正予算について

第3回 令和7年3月25日（火） 10時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール

出席 20名 欠席 10名 監事出席 2名  
第1号議案 令和6年度第3次補正予算について  
第2号議案 令和7年度事業計画について  
第3号議案 令和7年度当初予算について  
第4号議案 定款の変更について

3) 監査会

令和6年5月21日（火） 9時00分 中津市教育福祉センター 中会議室A・B  
結 果：事業状況、収支決算状況とも特に指摘事項なし

## 2. 会費、寄付金及び共同募金

### 1) 会費 (会員)

一般会費	4,165口	2,084,000円
特別会費	92口	460,000円
合計	4,257口	2,544,000円

地区	一般会費		特別会費	
中津	—	—	92口	460,000円
三光	1,467口	733,500円	0口	0円
本耶馬溪	881口	441,500円	0口	0円
耶馬溪	1,112口	556,000円	0口	0円
山国	705口	353,000円	0口	0円
計	4,165口	2,084,000円	92口	460,000円

### 2) 寄付金

香典返し	201件	6,986,000円
一般寄附	65件	1,914,785円
合計	266件	8,900,785円

地区	香典返し		一般寄附	
中津	83件	2,846,000円	55件	1,671,709円
三光	14件	500,000円	1件	30,000円
本耶馬溪	24件	815,000円	2件	167,476円
耶馬溪	47件	1,715,000円	0件	0円
山国	33件	1,110,000円	7件	45,600円
計	201件	6,986,000円	65件	1,914,785円

### 3) 物品寄付

ギフトカード	1件	20,600円
車 (中古)	1台	408,160円
電動ベッド一式	1台	150,000円
レク用品 (ポッチャ)	1件	35,200円
その他 (タオル等)	4件	0円
物品寄付額 (相当額)		613,960円

### 4) 中津市共同募金委員会への協力

赤い羽根共同募金	18,635件	7,957,352円
歳末たすけあい募金	19,282件	5,834,528円
合計	37,917件	13,791,880円

募金種類	赤い羽根共同募金		歳末たすけあい募金	
戸別募金	18,628件	7,816,705円	18,735件	3,363,805円
街頭募金	1件	2,140円	1件	17,715円
法人募金	0件	0円	513件	2,060,639円
職域募金	5件	138,495円	2件	110,523円
イベント募金	0件	0円	2件	4,691円
その他募金	0件	0円	29件	277,155円
預金利息	1件	12円	0件	
計	18,635件	7,957,352円	19,282件	5,834,528円

#### [戸別募金内訳]

地区	赤い羽根共同募金		歳末たすけあい募金	
旧中津市内	14,542件	6,100,385円	14,647件	2,626,705円
三光	1,423件	597,860円	1,425件	256,500円
本耶馬溪	835件	350,700円	835件	151,560円
耶馬溪	1,117件	469,140円	1,117件	201,060円
山国	711件	298,620円	711件	127,980円
計	18,628件	7,816,705円	18,735件	3,363,805円

期間外募金 (R7年度に計上。) 41,835円

(内訳) 自動販売機手数料: 5,057円、ふるさとサポート募金10,000円、大分グルメ散歩募金26,770円、銀行利息: 8円

### 5) 中津市共同募金委員会への協力 (災害義援金)

・能登半島地震災害義援金	230,607円
合計	230,607円

## 3. 住民主体による小地域ネットワークの推進

### 1) 寄り合いの場支援

住民が主体的に、住民同士の交流・関係づくり・介護予防を目的に行われている場づくりを支援

中津市全体	82ヵ所	寄り合いの場の種類・説明
地域サロン	6ヵ所	地域の中の民家や空き家等を活用して主体的な拠点を整備し、開催回数も週1～2回で、日常生活に密着した寄り合いの場
広域型サロン	6ヵ所	小・中学校区の範囲で、いきいきサロンの広域版である「交流型」と生きがいややりがいをテーマとした「活動型」
いきいきサロン	70ヵ所	自治区や集落等の小地域で、高齢者等を対象にしなが、月1回程度住民同士の交流の場として実施

※R6年度 新規寄り合いの場: いきいきサロン2ヵ所 (大悟法いきいきサロン、サロンドヒオケ)

## 2) ネットワーク構築支援

○地域福祉ネットワーク協議会の組織状況 (地区内の地域福祉推進活動)

No.	校区 地区	組織名称 (校区ネット)	発足 年月日	定例会	事務局会 議等	令和6年度の主な動き	助 成 金
1	南部	南部地区ネットワーク協議会ぽけっと	H18.10 ↓ H24.4	年3回	毎月1回	・情報紙の発行・総会及び定例会の開催・事務局会議の開催 ・第2層生活支援コーディネーターとの連携	○
2	北部	北部地域福祉ネットワーク協議会 (3つの「わ」ネット)	R4.3	年4回	毎月1回	・情報誌の発行・総会及び定例会の開催・事務局会議の開催 ・グループ活動の推進 (交流行事の開催)	○
3	小楠	小楠校区地域福祉ネットワーク協議会「OGUSU友愛 2017」	H29.12	年4回	毎月1回	・情報誌の発行・総会及び定例会の開催・事務局会議の開催 ・部会長会議の開催・部会活動の推進 ・外国人との交流イベント開催	○
4	豊田	「生き活き・豊田」	H22.12	年3回	年7回	・総会・定例会の開催 ・遊びの広場 (交流行事) の開催※公民館と共催	○
5	沖代	沖代校区ネットワーク協議会	H18.9 ↓ H21.4	年3回	毎月1回	・情報紙の発行・総会及び定例会の開催・事務局会議の開催 ・外国の方の理解や共生に向けての研修会開催 ・第2層生活支援コーディネーターとの連携	○
6	三光	ふくしの里 “ややま”	H31.3	年2回	毎月1回	・情報紙の発行・総会及び定例会の開催・事務局会議の開催 ・部会活動の推進 (防災部会…防災倉庫の視察等) ・第2層生活支援コーディネーターとの連携	○
7	山国	源流の郷やまくに福祉の会	H22.10	年3回	年2回	・総会及び定例会・事務局会議の開催 ・次世代育成研修会の開催 ・第2層生活支援コーディネーターとの連携	○

○見守りネットワークの組織状況 (地区内の地域福祉推進活動)

No.	校区 地区	名称	発足開始 年月日	全体会	見守りネットワーク数	令和5年度の主な動き	助 成 金
1	本耶馬溪	本耶馬溪町ふれ愛ネットワーク	H6.5	随時	17 (自治区単位で構成)	・役員会の開催 (9月) ・推進会議の開催 (4月、10月) ・合同研修会の開催 (12月)	○
2	耶馬溪	耶馬溪町地域見守りネットワーク協議会	H23.5	随時	12 (79自治区を12団体に構成)	・役員会の開催 (6月、12月) ・地区全体の推進会議の開催 (7月、2月)	○
3	山国	山国地区見守りネットワーク	R2.4	無	6 ※自治区で協議の上、団体を構成	・現在、6団体が活動 (宇曾元・大勢、春田、草本、肥前屋、 藤野木、小屋川)	○

## 3) 各種団体等助成金

市内において社会福祉を目的として、各種団体やボランティアグループ等が実施する様々な社会福祉貢献活動や事業に対して助成

区 分	件数	助成額	助成内容
小地域福祉活動助成 (市)	35件	1,680,000円	見守り活動及び交流活動を行うために、自治区単位で組織されている団体への活動助成
小地域福祉活動助成 (社協会費)	33件	650,100円	見守り活動及び交流活動を行うために、自治区単位で組織されている団体への活動助成
地域福祉推進活動助成 (市)	7件	494,000円	地域の福祉課題の解決を目指すべく組織された地域福祉ネットワーク協議会への活動助成
地域福祉推進活動助成 (歳末)	6件	270,000円	地域の福祉課題の解決を目指すべく組織された地域福祉ネットワーク協議会への運営助成
地域介護予防活動支援費助成 (市)	6件	182,000円	介護予防につながる「交流」「食事」などの機会を継続的に実施している住民主体の活動 (寄り合いの場) への助成
ボランティア活動助成 (共募)	46件	1,370,000円	会員が自発的に明確な意思・目的をもって結成し、活動している団体への活動助成
ボランティア推進校助成 (共募)	10件	300,000円	小中高等学校が取り組む福祉活動・ボランティア活動に対する助成
寄り合いの場活動助成 (共募・共募)	72件	918,000円	地域の寄り合いの場 (地域サロン等) への活動助成
新規立ち上げ活動助成 (歳末)	2件	60,000円	地域の寄り合いの場や地域福祉ネットワーク協議会) への活動助成
寄り合いの場活動助成 (社協会費)	50件	1,605,000円	地域の寄り合いの場 (地域サロン等) への活動助成 (三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国)
住民型有償サービス活動助成 (共募・歳末)	10件	1,200,000円	住民主体の在宅福祉サービス (家事援助・身体介護等) 団体への活動助成
一般公募助成 (共募)	6件	748,000円	高齢者・障がい者 (児)・子ども・防災など事業への助成 (1団体上限34万円)
公民館助成 (寄付金)	14件	210,000円	校区 (地区) 公民館を対象に、地域福祉の拠点や活動の連携を図る目的として助成
民生委員児童委員活動助成 (寄付金)	15件	1,028,514円	共同募金 (企業募金) 実績に基づき助成
自治委員活動助成 (寄付金)	15件	1,713,539円	共同募金と歳末たすけあい募金 (戸別) 実績に基づき助成
合 計	327件	12,429,153円	

## 4. 相談機能の強化による在宅福祉サービスの充実

### 1) 障がい者福祉サービス事業

障がいをもつ方に対して、ホームヘルプサービス及び訪問入浴サービスを実施

#### ①居宅介護事業 (家事援助)

実利用者数 6名 延利用回数 472回 延活動時間数 479時間 (障害区分: 身体1名、精神4名、知的1名)

#### ②居宅介護事業 (通院等介助)

実利用者数 4名 延利用回数 10回 延活動時間数 9.5時間 (障害区分: 精神1名、身体3名)

#### ③同行援護事業

実利用者数 7名 延利用回数 166回 延活動時間数 180時間 (障害区分: 身体 7名)

#### ④障がい児・者訪問入浴サービス事業 (中津市内で一事業所のみ) (市受託事業)

実利用者数 なし 延利用回数 なし

## 2) 移動支援事業

自宅に引きこもりがちな障がいをもつ方の外出を支援するサービス（市受託事業）

実利用者数 7名 延利用回数 132回 延活動時間数 351時間 （障害区分：身体4名、知的3名）

## 3) 障がい児(者)余暇活動支援事業(てくてく) (市受託事業)

余暇を充実して過ごすための活動の場を提供することで、障がい児者の心身の健康増進と自立のための能力の獲得を目的とした事業

### ①-1実施状況

開催回数	実利用者数	専任職員
12回	27名	3名

※令和6年度新規利用者 5名

### ①-2通常開催詳細(延べ)

利用者数	きょうだい児	保護者	ボランティア
138名	63名	112名	21名

### ①-3 てくてくカフェ ※令和5年度より新規(親同士の交流の場)

開催回数	延参加者数
2回	11名

### ② Summer てくてく実施状況(夏休み中の臨時開催)

開催回数	利用者数	きょうだい児	保護者	ボランティア
1回	12名	8名	13名	8名

## 4) 障がい者ミニデイ支援(鈴の音)

障がいのある方とボランティアがお互いを理解し尊重しながら、共に地域の住民として交流できる場を当事者主体を前提にボランティアと共に運営。当事者の意志を最も重要とし、障がいのある方自身の自立と自主性の支援を目的に開催。

開催日	開催回数	利用者数		ボランティア数		内容
		実数	9名	実数	11名	
第3水曜	11回	延べ数	54名	延べ数	86名	野外研修、講座、芸術鑑賞、おたのしみ会など お休み月(8月)

## 5) 障がい者等生活環境整備事業

住環境により福祉サービスを利用できない等社会生活に支障が出ている障がいのある人やその世帯に対する片付け支援事業。

支援件数	利用世帯人員	地区	支援内容
2件	①3人 ②2人	①豊田 ②鶴居	①市・包括と事前調査後、片付け
			②事前訪問、支援者会議の後、片付け ③支援者会議、事前訪問後、片付け

## 6) 寝たきり高齢者見舞品贈呈事業

市内の寝たきり高齢者世帯に対して、日常生活上の在宅介護に係る負担軽減と便宜を図ることを目的として、歳末助け合い募金配分事業により、見舞い品(介護用品)を贈呈。

(校区)

南部	13件	大幡	7件	本耶馬溪	4件
北部	15件	如水	1件	耶馬溪	3件
豊田	7件	三保	0件	山国	1件
沖代	10件	和田	1件		
小楠	6件	今津	11件		
鶴居	18件	三光	16件		
				合計	113件

## 7) 福祉用具貸出事業

在宅での要支援者や障がい者等に対して、福祉用具を貸出し、本人や介護者の負担を軽減するなど、在宅生活の便宜を図る。

### 【電動ベッド】

・貸出総数	143台
・保有台数	154台
※内廃棄数	4台

貸出対応件数

中津	14件
三光	3件
本耶馬溪	4件
耶馬溪	3件
山国	2件

計 26件

### 【車椅子】

・貸出総数	89台
・保有台数	136台
※内廃棄数	18台

貸出対応件数

中津	95件
三光	20件
本耶馬溪	4件
耶馬溪	5件
山国	5件

計 129件

## 8) 福祉啓発イベント

～こころ豊かに こころ育てる～

令和4年度より「シン・みんなのふくしまつり」と題し、コロナが5類移行後初の開催となる。子どもから高齢の方まで、どなたでも楽しめる祭りとなるよう、地域の方々にも多数参加いただき開催。

イベント名	開催日	参加者数	内容
シン・みんなのふくしまつり 「ごちゃリンピック ～ひろげよう！ふくしのWA～」	11月19日	約900名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まつりテーマ「ごちゃリンピック」</li> <li>・外国人総合相談センターによる「多文化体験」</li> <li>・東九州龍谷高等学校による「食育おべんとう」</li> <li>・大分県社会福祉協議会「ドローンサッカー」</li> <li>・中津第一病院「健康チェック」</li> <li>・VRによる認知症疑似体験</li> <li>・一芸披露(舞踊、演奏等)</li> <li>・パラスポーツ体験 等</li> </ul>

**9) 介護保険事業**

(1) 介護老人福祉施設事業（中津市特別養護老人ホームやすらぎ荘）

65歳以上で身体や精神上の障がいのため常時介護を必要とし、在宅での介護が困難な人が対象の事業。特に食事、排せつ、入浴など日常生活の介助や健康管理・リハビリ・療養上のケアを提供

（本入所）・・・定員 80名

サービス実施状況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	実人数		77名	77名	78名	79名	75名	79名	78名	74名	78名	80名	82名	82名
延べ人数		2,245名	2,244名	2,292名	2,355名	2,270名	2,164名	2,286名	2,195名	2,274名	2,341名	2,206名	2,433名	27,305名

(2) 短期入所生活介護事業（中津市特別養護老人ホームやすらぎ荘）

冠婚葬祭や旅行などで介護ができないときに利用したり、介護疲れを防ぐために短期間の施設利用。食事や入浴、排せつなど日常生活の世話やレクリエーション、リハビリなどを提供

（短期入所）・・・定員 20名

サービス実施状況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	実人数		20名	21名	20名	20名	23名	16名	15名	28名	29名	27名	33名	31名
延べ人数		340名	350名	318名	351名	333名	268名	204名	396名	522名	434名	487名	469名	4,472名

(3) 訪問介護事業

要支援者及び要介護者やサービス利用が必要な事業対象者に対して、ホームヘルプサービスを実施  
実利用者数 82名 延利用回数 7,499回

(4) 通所介護事業

要支援者及び要介護者やサービス利用が必要な介護予防事業対象者に対して、デイサービスを実施  
（通常型）開設日数 905日/年 延利用人数 18,973名 平均利用者数 21.0名

施設名	開設日数	延利用人数	平均利用者数
本耶馬溪	302日	6,722名	22.3名
耶馬溪	301日	6,977名	23.2名
山国	302日	5,274名	17.5名

(5) 通所型サービスA（生きがい元気アップクラブ）

サービス利用が必要な介護予防事業対象者に対して、デイサービスを実施  
（緩和型）開設日数 256日/年 延利用人数 1,546名 平均利用者数 6.0名

(6) 訪問入浴介護事業

要支援者に対して、訪問入浴サービスを実施（中津市内で一事業所のみ）  
実利用者数 21名 延利用回数 384回

(7) 居宅介護支援事業

要支援者及び要介護者に対して、介護計画書を作成。  
ケアプラン作成件数 5,098件/年

施設名	作成件数
本耶馬溪	3,751件
山国	1,347件

**10) 高齢者生活福祉センター事業**

高齢者に対して、介護支援機能、居住機能及び交流機能を総合的に提供し、高齢者が安心して健康で明るい生活が送れるよう支援。

施設名/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
耶馬溪生活支援ホーム	8名	8名	8名	9名	9名	10名	10名	10名	10名	9名	9名	9名	—
延べ利用者数	240名	248名	240名	276名	279名	273名	305名	274名	286名	279名	252名	279名	3231名
山国生活支援ハウス	13名	14名	13名	14名	15名	14名	15名	16名	15名	15名	16名	16名	—
延べ利用者数	356名	402名	390名	432名	447名	420名	448名	418名	439名	461名	429名	489名	5131名

**11) 老人福祉施設 養護老人ホーム運営事業**

老人福祉施設事業（養護老人ホーム中津市豊寿園）

経済的理由、環境上の理由により自宅で生活が困難と判断された、65歳以上の自立した高齢者の方が対象の施設。地域福祉を推進する社協として地域に開かれた施設経営を展開し、地域住民参加の活動を計画し地域交流を深め、また入所者の生きがいにつながる取組みを積極的に推進

年間在所状況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
	日数		30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	31日	31日	28日	31日	365日
入所者実数		40名	40名	40名	41名	41名	40名	42名	42名	41名	38名	38名	38名	—	
延べ人数		1,200名	1,219名	1,184名	1,237名	1,264名	1,200名	1,295名	1,253名	1,209名	1,153名	1,049名	1,147名	14,410名	
年間異動状況	新規	他施設													0名
		医療機関							2名						2名
		在宅			1名	1名	1名				1名		1名	1名	6名
		その他													0名
	退所	社会復帰													0名
		家庭復帰						1名						1名	2名
		医療機関									1名				1名
他施設				1名		1名				2名	1名	1名		7名	
入退院(外泊)	死亡									1名				1名	
	入院(外泊出)	1名	1名	6名	4名	3名	4名	0名	3名	3名	1名	1名	0名	27名	
退院(外泊戻)	退院(外泊戻)	1名	4名	2名	5名	2名	4名	3名	1名	2名	2名	2名	0名	28名	

## 12) 地域包括支援センター事業

令和5年10月から、事業の主たる拠点を本耶馬溪（市本耶馬溪支所）に変更し、三光から山国のエリアを担当している。

### (1) 包括的支援事業

#### ① 総合相談支援業務

高齢者が、住み慣れた地域で安心して生活ができるようさまざまな相談に応じる 

相談件数	1,653件
------	--------

#### ② 権利擁護業務

高齢者が尊厳を持って生活できるように、虐待や困難事例への対応及び成年後見制度の活用を行う 

対応件数	60件
------	-----

#### ③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

地域のケアマネへの指導助言や多職種連携によるケアマネジメント体制を作る

・包括的・継続的なケア体制の構築	6回
・地域における介護支援専門員のネットワークの活用	19回
・日常的個別指導・相談	38回
・支援困難事例等への指導・助言	7回

### (2) 介護予防事業普及啓発事業

高齢者を介護している方や地域支援者等 一般住民に対して、介護・福祉サービスや介護予防について普及啓発を図る

○介護予防に関する講話、講演会、相談会

実施回数	17回
参加者数	210名

○個別対応による普及啓発

実施回数	94回
人数	161名

### (3) 各種調査業務

① 「食」の自立支援事業実態調査 調査件数	36件
② 住宅改修理由書作成	8件
③ 緊急通報用電話貸与事業実態調査及び相談	9件
④ 老人日常生活用具給付等事業実態調査及び相談	2件

### (4) 介護予防支援（計画作成）業務

要支援1.2、事業対象者の方に対する介護予防サービス計画作成に関する業務 

相談件数	5,644件
作成件数	2,214件

### (5) 在宅医療・介護連携推進事業

#### ① 相談件数（分類）

全件数	内訳
160件	医療 124件、介護 1件、住民 24件、行政 11件

#### ② 会議等への参加

在宅医療・介護連携推進協議会	普及啓発ワーキング
1回	3回

### (6) 「元気！いきいき☆週一体操教室」立ち上げ継続支援事業

立ち上げに関する相談支援	立ち上げに関わった組織数	パンフレット等の配布
32回	3ヶ所	134人

## 13) 認知症地域支援推進事業

平成27年度からの委託事業。地域包括支援センター内に認知症地域支援推進員を置き、認知症患者・家族に対する支援と認知症理解に向けた地域づくりを行なう。（認知症地域支援推進員1名、嘱託医1名、ボランティア1名）

### (1) 会議・研修会参加

認知症地域支援推進員等連絡会議（県主催）	4回
物忘れ対応支援チーム員会議	12回
認知症初期集中支援チーム検討委員会	1回
認知症の人と家族の会中津支部集い	11回

### (2) 認知症支援、普及啓発に関する各種取組

#### ① 普及啓発活動

・広く住民に対する理解促進

項目	回数	参加者数	説明
認知症サポーター養成講座	4回	42名	中津南高校耶馬溪校、介護施設等で実施
認知症講演会	17回	303名	サロン、介護施設にて認知症予防体操及び認知症講師依頼対応。
世界アルツハイマー月間活動	1回	-	ゆめタウン中津にて、リーフレットの配布。

#### ② SOS声かけ模擬訓練

項目	開催日・場所	参加者数
SOS声かけ捜索模擬訓練	令和6年12月9日(月)山国	84名

#### ③ オレンジカフェ

・認知症の方、家族、地域住民、専門職等が集い、共に楽しんだり、理解し合い、つながり再構築の場として開催。

地区	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	合計
開催回数	3回	3回	3回	3回	12回
参加者数（延べ）	93名	53名	65名	73名	284名

ストリートオレンジカフェみなと

認知症の方やその家族、認知症に関心のある方、また移動手段、外に出る機会が少ない方々の地域へ向かい、認知症についての相談や気分転換を図れる機会を作る。場所を定めず、開催することが可能となる。なお、屋外で開催するため、密を防止、感染リスクを低減できる。

開催場所	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	合計
実施箇所(延べ)	2ヶ所	2ヶ所	5ヶ所	2ヶ所	11ヶ所
参加者数(延べ)	30名	27名	77名	44名	178名

④認知症家族介護者の集い

三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国地区内の認知症患者を介護している家族に対し、同じ立場の人同士での交流や意見交換の場をつくり、心のケアや介護負担の身体的精神的軽減を図る。

開催回数	1回
参加人数	9人

⑤認知症の人を地域で支える学習会

認知症になっても住み慣れた地域で生活できるよう、医療、介護との連携を図る機会を作り、認知症の理解を深め地域で認知症の人を支える仕組みづくりを図る。

参加対象者：三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国地区内の医療機関、介護保険事業所、民生委員、警察、住民型有償サービス、市役所職員、地域包括支援センター職員等

開催回数	4回	・本耶馬溪『治療から進行予防』 ・耶馬溪『VR体験会』 ・三光『認知症について～寸劇を交えて～』 ・山国『意外と知らない認知症の事』
参加人数	240名	

14) 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付

低所得者や障がい者世帯に対し、経済的自立と生活意欲の助長促進を図り、安定した生活が営めるよう資金面の支援と、相談等を行う事業。生活資金が必要な方が多く、緊急小口資金の申請が多くなる傾向です。令和4年9月末をもってコロナ特例貸付は終了。

資金種類		相談延件数	申請件数	決定	決定金額
総合支援資金	生活支援費	8	1	0	450,000円
	住居入居費	0	0	0	0円
	一時生活再建費	0	0	0	0円
福祉資金	福祉費	55	13	12	2,766,000円
	緊急小口資金	209	41	38	3,520,000円
教育支援資金	教育支援費	14	2	2	275,000円
	就学支度費	38	7	7	1,975,000円
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	3	0	0	0円
	要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	0	0円
臨時特例つなぎ資金		0	0	0	0円
合 計		327	64	59	8,986,000円

※要保護世帯向け不動産担保型生活資金については、県社協が直接担当します。

(2) 特例貸付みまもり支援

コロナの流行時期に特例貸付を借りた借受人に対して、生活再建に向けた支援を実施。その中で、見守り支援については、主に償還猶予者が対象になっており、猶予している時期に対して、生活再建のための家計相談等を行う。また、フォローアップ支援については、償還完了者や生保、死亡者以外の免除者・未償還等に対して、プッシュ型支援として、アンケート等を通してつなげる支援を行う。

見守り支援件数	51件
フォローアップ支援	85件

15) 生活困窮者自立促進支援事業

(1) 家計改善支援事業

家計のバランスに不具合がおきている方に対して、収支プラン・貸付あっせん表等、短期から中長期の計画表を相談者と作成し、生活の立て直しと自立に向けた家計作りを行う  
※特例貸付終了後、家計のバランスが取れなくなっていることで相談増。

相談支援者数	95名
プラン対象者数	3名

(2) 就労準備支援事業

就労への困難を抱えている方に対して、就労体験や就労訓練を行い、就労課題の解決を図る。また、中小企業家同友会や一般企業、ハローワーク、ジョブカフェ等との連携を図り、就労への一歩を踏み出すための取組を参加支援事業と組み合わせながら対応する。

対象者実人数	1名
プラン作成(再プラン含む)	1回
ハローワーク連携対象者数	7回

ハローワーク・企業等との連携	3回	耶馬溪エリアにてはるかふえ、山国・本耶馬溪にておしごと相談会を開催。
----------------	----	------------------------------------

(3) 社会資源等研究開発事業

生活困窮者に対して不足している資源について調査・取り組みを実施。

①調査・研究

制服バンク検討のための調査	先駆的に取り組んでいる杵築市への研修実施
---------------	----------------------

②資源開発（フードバンクnicoの取り組み）

- フードドライブ・・・毎月25日に食品を受付  
他 イオン三光・ゆめタウン・サンリブが協力  
シン・みんなのふくしまつりにて実施  
本所・各エリアと中津市環境政策課にて受付

実施回数	寄付者数（延べ）	品数	重さ
58	294名	7,794品	4,819kg

○nicoイベント（食事の提供）

実施回数	提供数	(12月) nicoキッチン・・・食事の提供（カレーライス）
1回	202食	

(4) ひきこもり支援事業

ひきこもりの人及びその家族に対する支援事業。家族支援や関係機関との連携により、つながる相談を実施。

①相談支援

相談件数 

85件
-----

対象者内訳	男性	女性	不明	29歳以下	30代	40代	50代	60代以上	不明
	15名	6名	4名	16名	3名	1名	2名		3名

②家族支援

- ・家族交流会開催  
情報提供の場とご家族同士の居場所づくりとして開催

開催回数	参加者数	(内対象者数)
2回	24名	5名

③広報啓発

地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等支援機関に対して、チラシ配布等の情報提供と連携。

(5) 一時生活支援事業

ホームレスの人への緊急一時的な宿泊費と衣食の支援（現物給付）

実施回数	23回
実人数	8名

(6) 支援調整会議

困窮事業プランの検討の会議。随時開催。

市福祉政策課、生活保護係、障害福祉係等と社協で相談者の自立に向けてのプランについて協議する。

回数	9回
----	----

(7) その他の支援事業

①備品貸出し

日常生活に必要な備品（カセットコンロ、炊飯器、電気ケトル、自転車等）の一時貸出し・出生活に必要な家電（冷蔵庫、洗濯機、日用家電品等）のお渡し

延べ回数	29回
実人数	25名

②食糧支援

食料がない方への緊急的な食糧支援（米、インスタント食品等）

延べ回数	252回
実人数	175名

**1.6) 重層的支援体制整備事業**

包括的支援体制づくりに向けて、自立相談（総合相談受付）・多機関協働・参加支援・アウトリーチ等を通じた継続的支援・地域力強化の5事業を一体的に進める事業。※地域力強化推進事業については「地域福祉ネットワーク」「講座・研修会」の項で別掲

(1) 自立相談支援事業

何かしらの事情で生活困難な状況について継続的な相談支援をすると同時に、社会的孤立を防ぐ地域づくりを行なう事業。相談種別を限定しない総合相談窓口機能を持つ。相談件数は前年度より減少しているが、複合的な課題が増加。

暮らしの総合相談支援実績

435件
------

相談種別（ケースにより重複）

病気、健康、障がい	住まい	家賃・ローンの支払	収入・生活費	税金や公共料金等の支払	債務	仕事探し、就職	仕事上の不安やトラブル	地域との関係	家族・人間関係
29件	45件	15件	151件	12件	10件	18件	6件	5件	5件
子育て	ひきこもり・不登校	DV・虐待	介護	権利擁護	生活支援	食べる物が無い	その他	合計	
5件	17件	2件	23件	88件	27件	40件	41件	539件	

※その他については、不安の訴えや外国人相談、ホームレス等複合的な課題

(2) 多機関協働支援事業

複合的な課題を抱えた人や世帯の支援を行う際、多分野の関係機関との関係を作る調整の役割を担い、分野や年齢で隔たない包括的な支援体制構築を図る。

重層的支援体制整備事業研修会	1回	行政・様々な分野の専門職で集まり、現在の地域を振り返りながら社会資源を見える化し、連携・協働の形（ネットワーク形成図）をデザインすることで中津市の地域共生社会のあり方を検討するため、研修を実施。参加者：37名
支援連携会議	11回	市役所内の福祉以外にも含めた庁内連携を軸に、中津市における課題解決から社会資源創出、連携の幅を広げることを目的とする。また、社協や民間支援機関、地域とつながるための「核」となる会議体となっている。地域福祉計画の推進に関わるものとなっている。
重層的支援会議	2回	重層的支援体制整備事業に関わる事業に関係するプランについて検討する会議。R6年度は参加支援事業を利用するプランについて協議。2回開催。
福助ネット会議	12回	複合的な課題を解決するために、多機関対応協働事業に位置付けている。毎月1回開催。参加者は、社協と『おおいた“くらしサポート事業”』に係るCSW及びスクールソーシャルワーカー、医療関係者等となっている。情報共有を行い、相談者に対する効果的な支援を行うための会議。
社会福祉法人へのアンケート調査		民間のネットワーク構築のきっかけとして、社会福祉法人に対して地域貢献活動の実態把握とネットワークの必要性に資する意識調査の内容でアンケート調査を実施した。30ヶ所中21ヶ所より回答。

(3) 参加支援事業

①社会参加促進として「就労支援」をテーマに取り組む。

就労支援アドバイザーと協力し、働きづらさを抱える多様な人への参加の機会を作るため、企業の協力による就労体験のメニュー作りと相談支援を実施。

相談件数	9件
プラン対象	2名

②『さんかく△ぶれいす』（居場所）の実施。

就労等相談ステーションや多様なニーズにあわせた居場所づくりの一環として、合同会社「は・た・ら・け・る」の場所にて実施。

開所回数	36回
相談来所件数	7件

参加支援事業説明会議	1回	参加支援事業の現状、合同会社「は・た・ら・け・る」の取組について情報共有連携会議を開催。 参加者：中津市役所福祉政策課、こども家庭センター、商業・ブランド推進課、中津公共職業安定所、ジョブカフェ大分中津サテライト、中小企業同友会中津支部、合同会社「はたらける」、東九州龍谷高等学校、中津市障がい者等年齢相談支援センター、包括支援センター3ヶ所 18名
------------	----	--

(4) アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

①くらしの総合相談窓口等のチラシ配布による広報活動や関係機関への働きかけにより、必要な情報が届き相談につながる。

実相談者数	7名
-------	----

②各地域の住民会議の場に参加し、困っている人が相談窓口につながるよう、制度の周知と情報共有、広報活動等を行う。（事業説明、食糧配布支援等）

啓発活動回数	9回
--------	----

③SOS発見につなぐ支援

○フードパントリー・・・困窮世帯への食糧配布

実施回数	6回	4月：15世帯、7月：43世帯、12月：95世帯、3月：16世帯（3月は配達による生活状況の把握を主に実施）、6月・10月：本耶馬溪・耶馬溪・山国エリアのみ52世帯
配布世帯数	221世帯	

○ライスパントリー・・・困窮世帯へのお米配布

実施回数	1回	11/26～11/28の期間で実施
配布世帯数	52世帯	

17) 福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートセンター中津）

認知症等高齢者や知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方を対象に、日常生活を営むのに必要なサービスを利用するための情報の入手、理解、判断、意思表示を適切に行えるよう支援を行う。

・年間の支援回数	2,269件		
・新規相談受付件数	80件		
・新規契約	35件	・解約者	38件
・契約者数（3/31現在）	155名	内訳	

居住エリア別	中津	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	その他※1	合計
	118名	7名	4名	13名	8名	5名	155名
居住状況別	在宅		施設（GH含む）		病院		155名
	70名		75名		10名		
世帯経済状況別	生活保護世帯			生活保護以外			155名
	67名			88名			
年齢別	65歳以上		40～64歳		39歳未満		155名
	114名		28名		13名		
障がい種別	認知症等高齢者		知的障がい	精神障がい	その他※2		155名
	67名		27名	19名	42名		

※1…契約している方が大分・日田・宇佐・豊前の施設等に一時的に入所・入院

※2…障がい疑われる人

・生活支援員登録数	20名
-----------	-----

18) 成年後見事業

(1) 市民後見推進事業

今後の第三者後見人としての「市民後見人」の養成及び市民への成年後見制度周知等の取り組みについて推進（市受託事業）

①会議の開催

事業項目	回数	内容
市民後見推進協議会会議	3回	学識経験者・弁護士・司法書士・社会福祉士・行政等と家裁主任書記官（オブザーバー）で構成する事業推進の協議会（5/31、8/21、3/17）

②市民後見推進研修会の開催

成年後見制度の必要性や市民後見人に対する理解を深めていただくための研修会を開催。

開催回数	参加者数	内容
1回	37	開催日時：令和6年6月26日（水）午後1時30分から午後4時 開催場所：教育福祉センター 多目的ホール 内容：①レクリエーション「人生会議をもっと身近に～カードゲームを用いて考えよう～」 講師：自分らしい「生き」「死に」を考える会 理事 田波 あづさ 氏 ②活動報告～想いに寄り添う市民後見人～ 報告者：大分市 市民後見人 安部 緑 氏 報告者：大分市 市民後見人 吉田 共典 氏 報告者：中津市社協 後見支援員 橋本いずみ 氏 報告者：なかつ市民後見人の会らいとふる 副会長 梶藤 銀子 氏 コーディネーター：大分大学 経済学部 総合経済学科 教授 青野 篤 氏

③市民後見人養成講座の開催（隔年開催）

第7期生となる市民後見人養成講座の開催

実施期間	令和6年9月～12月	市民後見人に必要な知識と実務を学ぶため、さまざまな専門職による講義と実務を学習、対人援助を学ぶための施設実習  補講により、修了が見込まれる場合は翌年度に補講を実施
開催回数	12日間	
受講者数	11名	
修了者数	10名	

④市民後見人候補者登録数（3/31現在）

47名

⑤市民後見人候補者フォローアップ研修の開催

今までの養成講座を修了し、市民後見人候補者として登録した人を対象に研修を開催。  
登録更新には各種別1回以上の受講を義務付け。

講義	開催回数	2回	・空家問題について 等
	参加者数	59名	
実務	開催回数	2回	・事例検討、施設実習 等
	参加者数	28名	

⑥市民後見人の会との連携・サポート

事業項目	回数	内容
市民後見人の会 活動支援	7回	令和2年度に組織化された「市民後見人の会」に対し、必要に応じて助言や定例会への参加、会独自の勉強会への講師派遣等を行った。役員会および定例会への出席（講師派遣含む）7回

(2) 法人後見事業

法人として、後見人となり、被後見人の身上保護・財産管理を行う。

受任時の手続きは職員が中心に行い、日常的な後見事務は後見支援員を中心に実施。（市受託事業）

事業項目	数	内容
新規受任者数	8件	後見：4件、保佐：3件、補助：1件
後見業務	23件	累計受任数58件の事務。これまで33名の被後見人が亡くなっている。他、転居のため辞任1名、補助開始の審判の取消による終了1名。 後見：13件、保佐：7件、補助：3件
法人後見支援員登録者数	20名	令和6年度市民後見人候補登録者37名中。
後見業務に携わる支援員数	12名	法人後見支援員20名のうち、実際の後見事務担当者として任命した支援員数。

(3) 成年後見支援センター事業（中核機関）

成年後見制度の利用促進のために、利用に向けての相談支援や地域や関係機関に対する制度啓発、さらに適切な制度利用に向けての調整役を担う。

①相談対応

権利擁護に関する相談件数	195件	成年後見制度説明、申立てに関する事、家庭裁判所に関する事、日常生活自立支援事業に関する事、虐待に関する事、親亡き後の支援の事 など
うち申立支援件数	20件	

②会議の開催

権利擁護支援方針検討会議	開催回数	30回	生活に課題を抱える対象者について、制度利用を含めて、今後の支援方針を検討する会議。対象者に直接かかわる支援者で対象者の現状やこれまでの生活歴などを共有し、制度利用の必要性や時期、成年後見人等の候補者などについて協議。対象者の生活を見守る体制づくりも兼ねている。原則月1回開催だが、定例での開催以外に、既存の会議等も活用した。 *権利擁護支援方針シートを整備し、十分なアセスメントを行った。 *この場で制度利用が必要となった事案については、受任者調整会議に諮る
	協議件数	101件	
受任者調整会議	開催回数	6回	令和2年度末に策定された「中津市成年後見制度利用促進基本計画」に基づき、設置。原則2ヶ月に1回開催。市長申立てや本人・親族申立に関する事案などで受任者の調整が必要な事案について、専門職等で幅広く調整・協議。 構成委員：弁護士、司法書士、社会福祉士、医師、施設職員、行政、社協 計9名
	協議件数	14件	

③広報啓発

広報啓発件数	41件	成年後見支援センターについて、どういう役割を担うところなのか、説明・周知を図ることを目的に、各種地域の会議や研修会等を活用して説明を行ったほか、既存の広報媒体（広報誌、ホームページ等）にて広報した。
--------	-----	---

④専門職向け研修会の開催

福祉関係機関、専門職が関心のあるテーマを通じて、福祉関係機関への成年後見制度の周知および活用を促進することを目的に研修会を開催。

開催回数	参加者数	内 容
1回	30名	開催日時：令和7年3月13日（木）午後2時から午後4時 開催場所：教育福祉センター 多目的ホール 内 容：講演「家じまいの新常識～生前整理と遺品整理で空家を防ぐ～」 講師：株式会社 なかつ空家管理サポート 代表取締役 原 彩乃 氏

## 19) 介護保険要介護認定調査事業

要介護認定申請に基づき、認定調査員が自宅や施設へ訪問し、対象の方の心身の状況など調査（市受託）

調査名	R6年度
更新	1,625件
新規	291件
変更	284件
合計	2,200件

## 20) 三光児童館事業

18歳未満のすべての子どもを対象とし、遊び及び生活の援助と地域における子育て支援を行い、子どもの健全育成に資するとともに児童館の適正な運営を図った。

①開館日数 266日

児童館利用者数	9,828名	就学前児童	374名
		小学生	8,761名
		中高生	187名
		保護者・ボランティア	506名

②三光児童館運営協議会の開催

開催日	参加委員数	協議内容
令和6年11月13日	6名	令和6年度事業計画、令和6年度活動報告（10月まで）
令和7年3月12日	5名	令和6年度活動報告（11月以降）

③子育て支援拠点事業

	開催日数	参加者数	場所
子育てひろば	40日	333名	三光児童館内
ともだちひろば	10日	24名	山国・耶馬溪・本耶馬溪

④放課後児童対策子どもの居場所確保事業

児童館に専門スタッフを配置し、入退館の把握や見守りを行い、放課後のこどもの居場所を提供する事業

⑤広報

名称	発行月	月部数	備考
児童館だより	12回	550部	三光地区の小中学校と児童関係の施設、ホームページ（市・社協）
子育てひろばだより （三光）	11回	50部	市役所、市内の子育て支援拠点、ホームページ（市・社協）
ともだちひろばだより （山国・耶馬溪・本耶馬溪）	2回	670部	未就園児家庭、ホームページ（市・社協） 各支所告知放送

Instagramによる広報活動 投稿 103回 児童館だよりの記事、子育てひろば・ともだちひろばの案内や活動報告

## 21) 放課後児童クラブ事業

昼間、就労等の理由で保護者のいない小学校に就学する児童に対して、授業の終了後における適切な保護及び健全な育成を図る。

（市受託事業）

年間実施日数 1,368日開設 登録児童人数 84名 延利用児童人数 14,832名

地区	開設日数	登録児童人数	延利用児童人数
真坂	289日	22名	4,504名
山口	289日	14名	2,280名
秣	252日	17名	2,667名
樋田	286日	20名	3,719名
城井	252日	11名	1,662名

## 5. 多様な人材による地域活動の推進

### 1) 住民参加型有償サービス事業（社協型）

自助・互助の精神を基調とした地域の“ボランティア的な”意識を持たれた人々と、低額有料（非営利）のサービスを必要として在宅で自立した生活を営む人々などが、地域に暮らす住民の構築をひとりひとりがお互いに助け合う社会を目指し、地域福祉の向上に寄与することを目的として実施。

社協運営登録者数

協会員 6名 利用会員 15名 延利用回数 323回

### 2) 生活支援体制整備事業

地域包括ケアシステムの構築に向け高齢者の生きがいづくり・介護予防の視点を持ち、高齢者ニーズを把握し、生活支援サービスをはじめとする資源開発や地域づくりを行う事業。（市受託事業）

①生活支援コーディネーター設置

コーディネーター	人数
第1層生活支援コーディネーター	1名
第2層生活支援コーディネーター	6名

南部・山国・今津・三光・沖代・豊田

②生活支援コーディネーター業務

- ・地域のニーズと資源の状況の見える化、問題提起

内容	第1層	第2層
いきいきサロン、地域サロン等へ参加し、高齢者の実態把握	18回	236回
住民型有償サービス定例会等への参加により高齢者の状況や課題を把握	24回	50回
元気！いきいき☆週一体操への参加による実態把握	10回	77回

- ・地域への働きかけ

有償サービスネットワーク協議会への参加	5回
地域福祉ネットワーク協議会会議の参加	68回
民生委員会等への参加	31回

- ・資源開発

担い手の育成（各種講座開催・協力）	9回
-------------------	----

- ・ニーズに対するマッチング

生活支援サービスコーディネーター	27回	20回
------------------	-----	-----

- ・その他

コーディネーター学習会の開催	13回
----------------	-----

③協議体

第1層協議体 「生活支援・介護予防を考える会」～高齢者の就労について～	1回
-------------------------------------	----

④会議等への参加・協力

中津市在宅医療介護連携推進協議会	1回
中津市在宅医療介護連携推進協議会 普及啓発ワーキング	2回
中津市在宅医療介護連携推進協議会 社会的処方ワーキング	3回
中央ケア会議への参加	12回
C型ケア会議への参加	12回
オレンジカフェ	8回
SOS声かけ模擬訓練会議	3回

⑤地域福祉・ボランティアに関する研修・講座の開催

No.	講座・研修名	回数	参加者	開催時期	対象	概要
1	ボランティア養成講座「おもちゃドクター養成編」	1回	13名	7月	地域住民	ボランティア団体「おもちゃ病院やま」で活動できるおもちゃドクターの養成講座として開催。 講師：おもちゃ病院やまメンバー
2	ボランティア養成講座「読み聞かせボランティア ステップアップ講座」	1回	20名	9月	R6年度「読み聞かせボランティア養成講座」受講者	R6年度「読み聞かせボランティア養成講座」のステップアップ編として開催。 講師：とんからりん文庫 土屋富子氏・奥家康子氏
3	ボランティア養成講座「男塾」珈琲講座	1回	16名	12月	概ね50歳以上の男性	「男性がボランティア活動に参加するきっかけづくり」として珈琲講座を開催。今回はステップアップ要素を取り入れつつ、新規の方の参加も見込む。講座にて地域の方に淹れる「ミニカフェ」実施。 講師：奥村哲生氏
4	地域福祉講座「モルック体験会」	1回	19名	12月	放課後等デイ・児童クラブ職員	R6年度貸出レク用具として新たに購入した「モルック」を体験を通して知っていただき、社協でレク用具貸出事業を行っていることを周知するとともに、これまで直接関わる機会が少なかった関係機関とのつながりづくりのきっかけとして開催。
5	ボランティア養成講座「ボランティアだよ！全員集合！！」	1回	31名	2月	市内で活動しているボランティア団体・個人	ボランティア団体同士の情報交換や横のつながりづくりを目的に開催。R6年度は、新規登録団体の紹介、男塾メンバーによる珈琲の淹れ方ミニ講座、アロママッサージ等を実施。 講師：シェアサロン ジョベネーラ 和才美絵氏
5	ボランティア入門講座「ボランティア はじめの一歩」	1回	19名	3月	ボランティアに興味のある方	ボランティアとはなにか？の基本的な心構えとボランティアについて理解促進を促すことを目的に開催。広報先を「春ボラ」希望の学生にも広げ、学生5人参加。 講師：夢こらば 主宰 松尾やよい氏
6	被災者支援ボランティア講座「協働減災塾～避難所について考える～」	1回	29名	3月	被災者・被災地域支援を行う団体・一般市民 等	発災後の被災者支援における連携・協働の関係づくりを目的に開催。R6年度は「避難所」に焦点を当て、避難所における被災者支援において、関係機関でできること等について意見交換を行った。 講師：NPO法人リエラ 代表理事 松永謙矢氏 実践報告者：あつとほうむぶれいす 川野陽子氏

⑥第2層地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）の動き

地区	内容	開催回数	参加者数	概要
南部	小祝よりあ	8回	17名（延）	高齢者の閉じこもり予防の“場”づくり
	諸町よりあ	2回	7名（延）	街場に住んでいる独居または高齢世帯の居場所づくり
	南部幼稚園との交流会	1回	11名	南部地区の高齢者と幼稚園児の交流の機会として、南部幼稚園にて開催。園児たちの発表や昔の遊びを通じた交流などでふれあった。
	南部4サロン交流会	1回	14名	南部地区にある4つのサロンの運営者やスタッフとの情報共有・発信に加え、モチベーションを上げることを目的に開催。
	南部つながり座談会	1回	11名	包括等福祉専門職と地域の福祉活動者（主に住民型有償サービス）との顔合わせ・情報交換の場として開催。お互いの取り組みの理解を深め、事例等も交え意見交換を行った。
沖代	沖代よりあ	0回	0名	R7年度開催に向け企画中

地区	内容	開催回数	参加者数	概要
今津	まったり庵	8回	35名(延)	大勢の場所に行きづらいと感じている人の居場所、情報提供の“場”づくり
山国	山国よりあ	10回	94名(延)	「共食」をテーマに参加者と一緒に調理、会食を実施。
豊田	豊田よりあ	0回	0名	R7年度開催に向け企画中
その他の地区				
耶馬溪	耶馬溪出張よりあ	2回	28名(延)	耶馬溪地区のボランティア等お世話役の方が元気になる“場”づくり

### 3) 中津市福祉の里づくりサポーター事業

65歳以上の中津市の介護保険第1号被保険者が、サポーター活動を行うことによって、本人の健康増進・介護予防・社会参加・地域貢献を通じた生きがいづくりを目的として実施。(市受託)

サポーター登録者数	376名	(高齢者施設、障がい者施設、児童施設、給食ボランティア、地域サロン等)
受入登録施設・事業所数	101ヵ所	
サポーター延活動回数	4479回	

中津市福祉の里づくりサポーター事業情報誌「ふくサポNo.9」 発行 年 1回 800部発行

### 4) ファミリー・サポート・センター事業

子育て中の家庭を応援するために、子どもの預かり等の援助を受けたい方(おねがい会員)と預かり等の援助を行う方(まかせて会員)との相互援助活動に関する相談援助・連絡調整を行う。(市受託)

おねがい会員登録者数	110名	活動件数	249件
まかせて会員登録者数	72名	活動延時間数	478.5時間
		お見合い件数	20件
おねがい会員調査 4/26 115名		相談件数	278件
まかせて会員調査 4/26 87名		会報発行No.5 4月 会報発行No.6 9月	

11月27日：令和6年度まかせて会員養成講座開催 受講修了者 3名

## 6. 福祉意識の高揚・啓発及び育成

### 1) 「わいわい福祉ひろば」事業

社協内にハートプロダクションを設け、市内近郊の視覚、聴覚、肢体の障がい者及び手話や点訳ボランティア、高齢者等をタレント登録し、市内の小学校等に派遣し、生活体験の講話や疑似体験学習を通し、障がい者の理解・高齢者理解などの福祉意識の啓発を図る事業。

#### 【コース別】

聴覚コース	4回
視覚コース	16回
肢体コース	15回
エルダーコース	20回
オレンジコース	
合計	55回

#### 【年度実績】

実施小学校数(校)	19校
年間開催回数(回)	55回
受講者数 児童生徒(人)	2,126人
受講者数 保護者(人)	32人

#### 【研修会・交流会の開催】

講座・研修名	回数	参加者	開催時期	対象	概要
わいわいタレント交流会	1回	20名	3月	わいわい福祉ひろばタレント	R6年度は各コースプログラムの見直しを実施。年度の振り返りの意見交換及びレクリエーションを通じてタレント同士の交流の機会を設けることで、横のつながりづくりを図る。 講師：中津レクリエーション協会

#### ①一般企業及び各種団体向け福祉教育の推進

一般企業及び各種団体に対し、疑似体験、講義、グループワークを通して、障がい者の理解・高齢者理解を図るとともに、福祉意識を行う。地域共生社会の実現に向け進めていく事業として、令和6年度より実施。

企業名	回数	延参加者数	内容
(株)ファノバ	2回	17名	①アイマスク・車いす体験、障がい理解等について ②高齢者疑似体験、認知症の講話・寸劇など高齢者理解について

### 2) 社協だよりの発行

名称	年間発行回数	1回の平均部数	主な配布先	備考
社協だより なかつ	3回	34,985部	市内全戸	7/1、10/1、2/1発行
社協だより なかつ(点字版)	3回	17部	市内視覚障がいの方	同上

### 3) エリアの取り組み

#### (1) エリア広報紙(地域福祉情報紙)の発行

地区	名称	年回数	1回の平均部数	主な配布先
三光	とんぼのめ	6回	1,900部	全戸、公共施設
本耶馬溪	にじのはし	6回	1,200部	全戸、公共施設
耶馬溪	めいぶる	6回	1,500部	全戸、公共施設
山国	かかし	6回	920部	全戸、公共施設

## (2) 各エリアの地域福祉の取り組み

No.	取り組み	回数	参加者	開催時期	対象	概要
三光	サロン交流会	1回	17名	10月	サロンお世話役	令和5年度に初めて開催。サロン同士の情報共有を図るとともに、交流の機会をとおしてモチベーションの維持を図る。中津市消防本部耶馬溪分署・藤原氏より「予防救急」に関するミニ講話を広報を兼ねて行う。
	小地域ネットワーク会議	15回	126名	12月～2月	サロンお世話役	・R7年度のいきいきサロン年間計画の検討 ・地域内での困りごと、気になる人などの情報共有
	四季を楽しむバスツアー	1回	16名	12月	下深水サロン参加者・近隣住民	令和5年度より始まった事業。路線バスが廃止となった地区を対象に、外出機会の減少による生活意欲の低下を予防し、サロン参加者を含む人との交流機会の維持を目的として開催。 行先：るるパーク
本耶馬溪	福祉ボランティア講座「遊びの学校」	1回	47名	8月	三光・本耶馬溪地区サロンお世話役	楽しみながら地域で活動できる人財を養成することを目的に、いつまでもお世話役だけでなくサロン参加者も健康に過ごせるよう講座を開催。 講師：NPO法人ヘルス・フィッネス・フォーラム 松元義人氏
本耶馬溪	おでかけサロン買い物バスツアー	4回	56名	8月10月11月	サロン利用者 サロン近隣住民	地区内のサロン（寄り合いの場）を拠点として、大型店舗等への買い物バスを運行し、サロンの活性化と地域課題の一つである「買い物」に対する支援を行うことで外出意欲の向上を目指す
	本耶馬溪サロン交流会	1回	12名	1月	サロン利用者 週一体験参加者	サロン同士の情報共有と交流の機会として開催。中津市消防本部耶馬溪分署より「予防救急」のサロン向け講座の広報やサロンで使える体操等の情報提供を行う。参加者同士の交流を図ることで、情報交換とモチベーションの維持を図る
耶馬溪	耶馬溪サロン交流会	1回	16名	12月	サロンお世話役	サロン同士の情報交換と交流の機会として開催。中津市消防本部耶馬溪分署・藤原氏より「予防救急」に関するミニ講話。参加者同士の交流を図ることで、情報交換とモチベーションの維持を図る。
	買い物バスツアー	1回	15名	12月	津民地区サロン参加者・地域住民	耶馬溪地域福祉ネットワーク会議で実施したアンケートより挙げられた地域課題である“買い物”の解消への第1歩としてモデル実施。旧中津市内の商業施設へ買い物へ行くとともに、事業に対するご意見をいただき、今後へつなげていく。
耶馬溪	福祉ボランティア講座「遊びの学校」	1回	40名	11月	サロンお世話役 福祉活動に興味のある方	楽しみながら地域で活動できる人財を養成することを目的に、手作りレクリエーションの講座を開催。（耶馬溪・山国合同） 講師：日田レクリエーション協会 梶原 キズ子氏 内容：簡単で楽しい手作りレクリエーション
山国	バス乗車体験会	2回	36名	1月	主にサロン参加者	山国地区で10月から始まったデマンドバスの周知及び外出機会を設けることによる社会参加のモチベーション向上を図ることを目的に、山国支所から委託を受け実施。
	山国いきいきサロンネットワーク会議	1回	16名	7月	サロンお世話役	サロン同士の情報交換と交流の機会として開催。中津市消防本部耶馬溪分署・藤原氏より「予防救急」に関するミニ講話を広報を兼ねて行う。

## (3) 安心生活支援事業（買い物支援事業：山国）

一人暮らし高齢者及び高齢者世帯等のうち、買物が不便な方が登録。利用者の依頼に対して買い物代行し、自宅に届ける事業。

利用登録会員	14名
実利用者数	5名
買い物配達回数	155件
買い物支援を行った販売金額	243,197円

\* 1回当たりの平均購入額 1,569円

## (4) 葬祭壇貸出事業

【貸出件数】

山国	1件
合計	1件

## 4) 事業所広報紙・新聞

No.	広報紙・新聞名	年間発行回数	1回の平均部数	主な配布先
1	やすらぎだより	12回	125部	施設入所者の家族と関係者
2	豊寿園だより	3回	100部	施設入所者の家族と関係者
3	ウテリー だより	4回	80部	利用者の家族と公共の施設（山国地区）
4	なのはな便り	4回	80部	利用者の家族と公共の施設（耶馬溪地区）
5	ひなぎく	3回	80部	利用者の家族と公共の施設（本耶馬溪地区）

## 5) ホームページ

ホームページのリニューアルを行い、新鮮な地域福祉に関する情報、地域資源の紹介、社会福祉協議会の紹介などをインターネットを通じて発信。

ホームページアドレス : <http://www.nakatsu-s.or.jp/>

## 7. 法人組織体制の強化

### 1) 職員配置状況(所属別)

①所属別 令和7年3月31日現在 単位：名

名称	正規	嘱託	非常勤	再雇用	計
総務課	11	3	0	2	16
地域福祉課	30	5	30	0	65
福祉サービス課	3	7	40	0	50
在宅福祉課	27	18	58	4	107
豊寿園	8	3	20	2	33
やすらぎ荘	41	6	29	3	79
計	120	42	177	11	350

②拠点別 単位：名

名称	正規	嘱託	非常勤	再雇用	計
中津市教育福祉センター	20	8	25	0	53
養護老人ホーム豊寿園	8	3	20	2	33
三光コミュニティセンター	8	3	3	2	16
放課後児童クラブ(5か所)	0	0	18	0	18
本耶馬溪総合福祉センター	7	8	12	0	27
市本耶馬溪支所	15	1	1	2	19
特別養護老人ホームやすらぎ荘	41	6	29	3	79
市耶馬溪支所	8	2	22	0	32
耶馬溪デイサービスセンター他	5	4	16	0	25
耶馬溪生活支援ホーム	0	1	7	0	8
山国社会福祉センター	4	0	2	1	7
山国高齢者生活福祉センター	4	6	22	1	33
計	120	42	177	11	350

※兼任している職員は、主としている事業所に計上

### 2) 法人内部における会議・委員会

No	会議名	回数	所管
1	課長会議	25	総務課
2	エリア会議	60	総務課
3	係長会議	6	総務課
4	やすらぎ荘運営会議	12	やすらぎ荘
5	喀痰吸引委員会	12	やすらぎ荘
6	栄養管理委員会	10	やすらぎ荘
7	身体拘束未然防止委員会	3	やすらぎ荘
8	感染症防止委員会	2	やすらぎ荘
9	事故防止委員会	2	やすらぎ荘
10	褥瘡防止委員会	4	やすらぎ荘
11	介護サービス委員会	2	やすらぎ荘
12	やすらぎ荘ケア会議	4	やすらぎ荘
13	ノーリフティングケア委員会	2	やすらぎ荘
14	キャリアアップ委員会	0	やすらぎ荘
15	看取りケア委員会	1	やすらぎ荘
16	高齢者虐待防止、接遇委員会	2	やすらぎ荘
17	主任・副主任研究会	14	やすらぎ荘
18	各介護グループ、医務室会議	15	やすらぎ荘
19	事業所業務改善会議	82	在宅福祉課
20	居宅介護支援部会	2	在宅福祉課
21	通所介護部会	10	在宅福祉課
22	通所相談員部会	5	在宅福祉課
23	通所看護職部会	5	在宅福祉課
24	通所介護職部会	4	在宅福祉課
25	通所機能訓練部会	2	在宅福祉課

No	会議名	回数	所管
26	通所調理職部会	4	在宅福祉課
27	在宅福祉課主任・副主任会議	2	在宅福祉課
28	高齢者虐待防止員会	4	在宅福祉課
29	感染症まん延防止委員会	3	在宅福祉課
30	居住部会	2	福祉サービス課
31	ケース会議	35	豊寿園
32	献立委員会	12	豊寿園
33	感染対策委員会(定例)	4	豊寿園
34	感染対策委員会(臨時)	4	豊寿園
35	事故防止対策委員会	12	豊寿園
36	身体拘束適正化委員会	4	豊寿園
37	職員会議	12	豊寿園
38	広報委員会	4	豊寿園
39	入所者対話の日	12	豊寿園
40	正職支援員会議	2	豊寿園
41	支援員会議	11	豊寿園
42	非常勤支援員会議	1	豊寿園
43	夜勤支援員会議	2	豊寿園
44	日勤支援員会議	1	豊寿園
45	看護職員会議	12	豊寿園
46	まつり運営委員会	7	豊寿園
47	鶴居小学校交流運営委員会	5	豊寿園
48	忘年会運営委員会	3	豊寿園
49	事業計画・予算会議	4	豊寿園
50	障がい者加算算定会議	1	豊寿園

### 3) 職員全体及び階層別研修会

開催日	参加者数	研修内容
令和6年5月28日	211名	虐待防止に関する職員全体研修会(オンライン)
令和6年9月13日	18名	ファンドレイジング研修会(1回目)(オンライン)
令和6年10月17日	218名	交通安全講習会(オンライン)
令和6年12月17日	208名	人権研修・学習会(オンライン)
令和6年12月18日	12名	ファンドレイジング研修会(2回目)(オンライン)

1) ボランティア・市民活動センター事業

ボランティアコーディネーターを設置し、ボランティア活動の発掘と支援のための相談、連絡、調整、育成、啓蒙活動等を実施。

①ボランティア希望・募集・相談 54件

②ボランティア登録状況

種別	団体数	団体会員数
団体Vo	133団体	3,404名
個人Vo		585名
計	133団体	3,989名

③ボランティア活動保険

ボランティア活動を行う個人・グループが安心して活動が行えるようボランティア活動保険の加入促進。

加入者数 2,758名

④ボランティア体験月間の取り組み

○夏のボランティア体験（実施期間 7～8月）

受入施設数		32カ所
参加者内訳	一般	2名
	大学・専門学校生	9名
	高校生	162名
	小・中学生	36名
	参加者合計	209名

※中津北高では、1・2年生を対象に6月に「ボランティアとは」「夏のボランティア体験月間」上記について講話を行う

○夏のボランティア体験月間受入施設交流会

事業趣旨の共有及び受入施設同士のつながりづくりを目的に開催

開催時期	6月
参加施設数	17施設

○冬のボランティア体験月間（12～1月）

受入施設数		3カ所
参加者内訳	一般	0名
	大学・専門学校生	0名
	高校生	9名
	小・中学生	0名
	参加者合計	9名

○春のボランティア体験月間（3～4月）

受入施設数		24カ所
参加者内訳	一般	1名
	大学・専門学校生	0名
	高校生	137名
	小・中学生	0名
	参加者合計	138名

○事前オリエンテーション（集合型）

	R6	
	夏	春
回数	5回	3回
参加者数	197名	136名

※冬は個別対応

⑤ボランティア・市民活動センター運営委員会の開催

中津市ボランティア・市民活動センターが行う、ボランティア活動・市民活動の推進に関わる様々な事業の運営について、多様な立場の考え方や意見を反映させることにより、さらなる事業の発展及び市民に開かれたセンターを目指す目的として、中津市ボランティア・市民活動センター運営委員会の設置及び開催。

運営委員	9名	学識経験者、ボランティア活動者、当事者団体、地域活動者等で構成
開催回数	2回	9月：令和6年度事業経過報告、質問・意見交換 3月：令和6年度事業報告、令和7年度事業計画、質問・意見交換

2) ボランティア情報紙の発行

名称	年回数	1回の平均部数	主な配布先
ボランティア・市民活動情報紙ぺんぎん	6回	5,700部	公共施設、自治委員、民生委員、ボランティアグループなど

3) ぼらかふえの開催

	回数	参加者	開催時期	対象	概要
ぼらかふえ	6回	164名	4月, 6月, 8月, 10月, 12月, 2月	ボランティア活動者、ボランティアに興味のある方	経験の有無に関わらず情報交換や交流を行いながらボランティア活動の活性化を図ることを目的に、ボランティア活動者やボランティアに興味がある方などが気軽に集える場として、コーヒーを飲みながら談笑し交流するカフェスタイルで開催。男塾受講生の活動の場の一つにもなっている。 内容：絵手紙展示、ハンドマッサージ、写真展示、読み聞かせ、絵画等展示、給食ボランティア活動紹介 等

## 9. その他協事業

### 1) 福祉バス運行事業

地域福祉活動の研修、交流を図るための福祉バス「さつき号」の運行事業。

運行回数	延利用者数
99回	2,417人

### 2) 災害見舞金支給事業

市内に在住する世帯で、災害（火災、風水害等）により家屋が損害を受けた世帯に対して、見舞金を支給。

火災 1 件 （内訳：全焼 1件）

### 3) 施設等管理運営事業

No	施設名	開館日数	延利用者数
1	中津市教育福祉センター	308日	23,994名
2	耶馬溪介護研修センター	293日	140名
3	すば一く耶馬溪多目的広場	365日	632名
4	山国社会福祉センター	335日	2,457名

## 10. 各種共催・後援状況、視察受入、協力

### 1) 行事の共催及び後援状況

No.	共催・後援	月日	内容	団体等
1	後援	R6. 6. 7～8	第55回全国ホテル研究会	NPO法人耶馬溪ほたるの会
2	後援	R6. 6. 8	第19回天までとどけ ほたるコンサート	NPO法人耶馬溪ほたるの会
3	後援	R6. 8. 31	第12回耶馬溪千本づきフェスタ	耶馬溪千本づきフェスタ実行委員会
4	後援	R6. 9. 23～29	ブルーライトアップinなかつ	ブルーライトアップinなかつ実行委員会
5	後援	R6. 10. 20	「サロン支援者のためのリーダー講習会」	中津レクリエーション協会
6	後援	R6. 10. 27	なかつ防災フェスティバル2024	公益社団法人中津青年会議所
7	後援	R6. 12. 1	第16回New杜の声朗読コンサート	朗読サークルNew杜の声
8	後援	R6. 12. 8	2024年度県北地区福祉のしごと就職フェア	大分県社会福祉介護研修センター
6	後援	R7. 1. 9	「弁当の日」映画上映会	中津市民生委員児童委員連合協議会
7	後援	R7. 2. 24	インクルーシブ防災学習会～障がいがあってもなくても、みんなで助かるために～	あつとほうむぶれいす
8	後援	R7. 3. 2	大分県耳の日集会	社会福祉法人大分県聴覚障害者協会

### 2) 視察の受入れ、協力状況

No.	月日	県等	受入先	受入数	視察内容
1	R6. 9. 18	大分県	大分市明治地区社会福祉協議会	40名	地域福祉ネットワーク協議会について
2	R6. 9. 25	大分県	佐伯市社会福祉協議会	3名	生活困窮者自立支援事業について
3	R6. 11. 25	大分県	佐伯市蒲江地区民生委員児童員協議会	41名	特別養護老人ホームやすらぎ荘現地視察について
4	R6. 12. 10	大分県	玖珠町八幡地区コミュニティ運営協議会	18名	地域サロンについて
5	R7. 2. 27	沖縄県	大宜味村地域包括支援センター	6名	住民型有償サービスについて